

introduction

膝蓋骨脱臼は膝外傷の2~3%といわれ、小児では膝関節血症を生じる第1位の原因疾患で、成人でも前十字靱帯損傷に次いで多い疾患です。小児の膝蓋骨脱臼の40%が膝蓋骨不安定症に移行するとされ、10~17歳では10万人あたり5.8~29人の発生率があるといえます。本症は適切な治療がなされなければ、運動・スポーツ活動性を低下させるだけでなく、ときに膝蓋大腿関節症をきたして日常生活動作を障害させ、生活の質を大きく低下させる危険性を孕んでいます。そこで、本号の特集テーマを「膝蓋骨不安定症の病態と治療」とし、本症に関する基礎・臨床研究分野で随一の専門家の方々にご執筆を賜り、本誌を構成しました。

まず、本症の病態・治療に重要な膝蓋大腿靱帯の解剖について詳細に解説いただきました。続いて、本症の病態を形成する膝蓋大腿関節の動的变化を3次元コンピュータ解析によって説明いただき、本症の画像診断の要点を述べていただきました。そして、生体力学的評価法の有用性を説明いただきました。

次に、保存療法においては再脱臼因子検討の重要性を、手術的治療においてはハムストリング腱を用いた内側膝蓋大腿靱帯 (medial patellofemoral ligament ; MPFL) 再建術や、人工靱帯を用いた同再建術と脛骨粗面前方移動術について、そして各術式の実績と治療成績を解説いただきました。また、本症に伴う膝蓋大腿関節軟骨損傷の実際と、MPFL 再建術後のリハビリテーションについて詳細に説明いただきました。さらに、膝蓋大腿関節症の治療の実際を説明いただき、最後に本症による不安感について機能的磁気共鳴画像検査を用いた脳変化を示していただきました。

本特集が、膝蓋骨不安定症のさらなる病態解明と治療成績の向上に資することになれば編者として望外の喜びです。

最後にご多用のなか、ご執筆の労をお執りいただいた執筆者の皆様に厚く御礼申し上げます。

島根大学医学部整形外科
内尾祐司